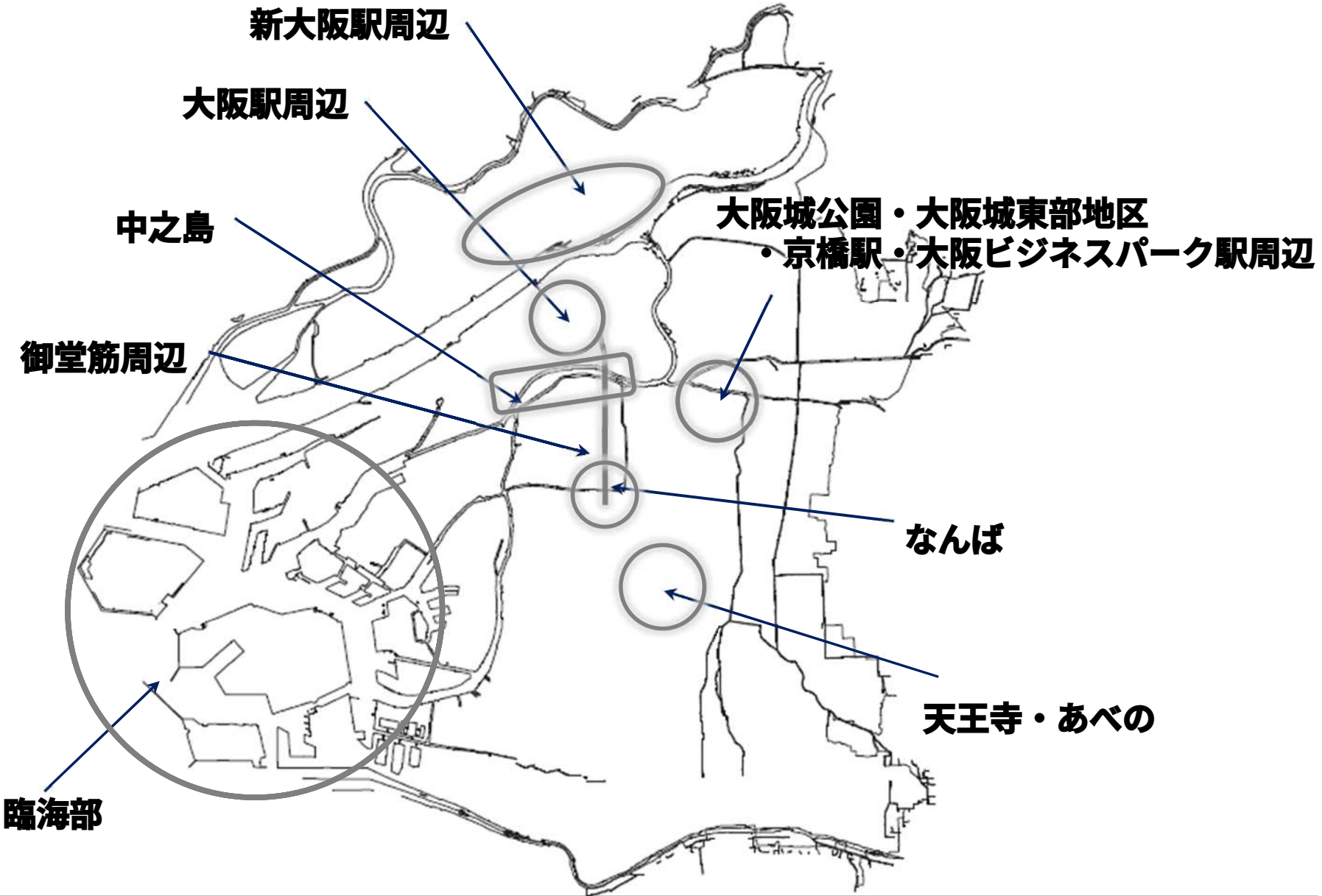
3　エリア別のまちづくりの方向性

CITY OF OSAKA 大阪市

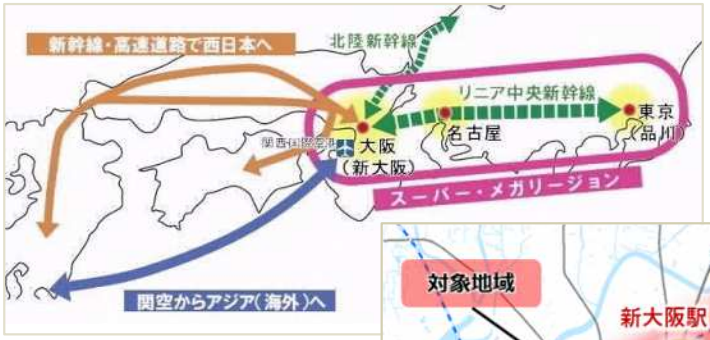
位置図



「大阪のまちづくりグランドデザイン」や「都市再生緊急整備地域」に位置付けられているエリアを参考に、
市内の各エリアで取り組んでいる施策をとりまとめています。

新大阪駅周辺

・新大阪駅周辺地域では、北陸新幹線やリニア中央新幹線の全線開業によるスーパーメガリージョンの形成などのインパクトを見据えて、新大阪、十三、淡路を一体的なエリアとして捉え、駅とまちが一体となった世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりをめざします。

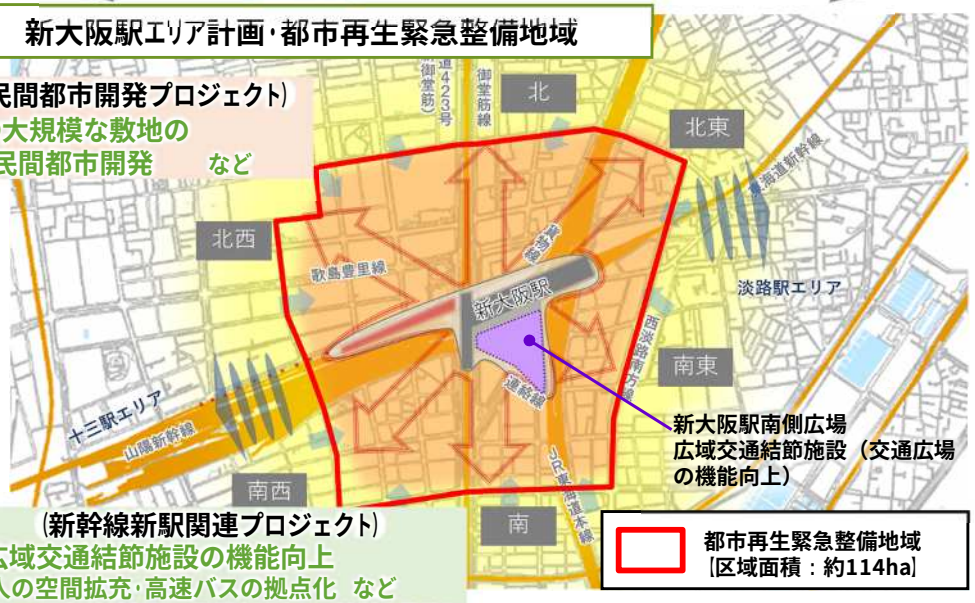


「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022」

世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現（20～30年先）をめざし、全体のめざすべき大きな方向性を示す「全体構想」と、新大阪駅エリアの民間都市開発に期待する内容などからなる「エリア計画」を作成。

全体構想

新大阪駅エリア計画・都市再生緊急整備地域



これまでの経過・今後の流れ

2018年度：国による都市再生緊急整備地域の候補地域に位置づけ
国、府、市、民間事業者、経済団体、学識経験者などによる
新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会を設立

2022年度：
・「まちづくり方針2022」の策定
（全体構想・新大阪駅エリア計画）
・国による都市再生緊急整備地域の指定

エリア価値を高める
民間都市開発プロジェクト具体化

リニア・北陸新幹線の
駅位置の方向性

新大阪駅エリア計画の更新

新大阪連絡線・
なにわ筋連絡線の
駅位置の方向性

阪急鉄道高架化・
柴島浄水場
ダウンサイジング

十三駅エリア計
画の策定

淡路駅エリア計
画の策定

駅とまちが一体となった世界有数の広域交通ターミナルのまちの実現

大阪駅周辺

・大阪駅北側に位置するうめきた２期では、「みどりとイノベーションの融合拠点」として、世界から人が集まる、一体的で魅力あるまちづくりを進めます。
・民間の創意工夫によるエリアマネジメントを誘導し、大阪駅周辺において一体的に運用することで、まちの付加価値を高め、憩い、過ごすことができる快適な空間の創出をめざします。

うめきた２期　都市基盤施設の整備

今後のスケジュール　2024年9月：先行まちびらき
2027年度　：全体まちびらき

うめきた２期　民間開発の概要

〇大阪駅北大深西地区土地区画整理事業
民間開発に向け、土地の区画を整え、良質な宅地を提供するとともに、地区の骨格となる道路、広場等の公共施設を整備します。

〇大深町地区防災公園街区整備事業
地上のまとまったみどりとして、地区中央部に都市公園を整備します。

〇うめきた新駅設置事業・JR東海道線支線地下化事業
地上を走行するJR東海道線支線を地下化し、分断された市街地を一体化するとともに、新駅を設置し関西国際空港との所要時間を短縮します。
※R5.2地下化切換、R5.3JR大阪駅（うめきたエリア）の地下ホームとして開業

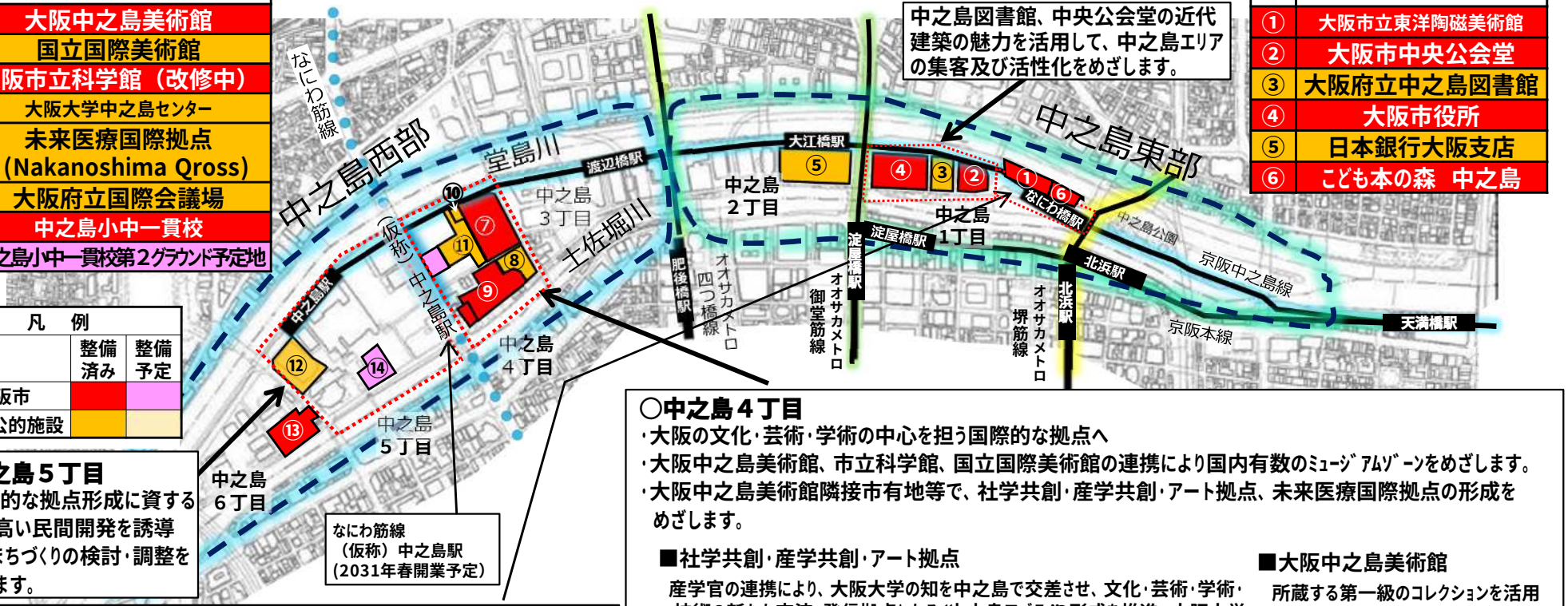
・うめきた新駅の設置等とともに、「なにわ筋線」の事業を推進し、都心部から関西国際空港や新大阪へのアクセス強化を図ります。
・来街者の利便性向上に資する先端的サービスの提供により、スーパーシティ構想の推進に取組みます。

中之島

・水の都・大阪のシンボルである中之島において、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、なにわ筋線の開業を契機とした未利用地の土地利用転換を促進し、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりの実現を図ることにより、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成をめざします。

番号	
⑦	大阪中之島美術館
⑧	国立国際美術館
⑨	大阪市立科学館（改修中）
⑩	大阪大学中之島センター
⑪	未来医療国際拠点 (Nakanoshima Qross)
⑫	大阪府立国際会議場
⑬	中之島小中一貫校
⑭	中之島小中一貫校第２グラウンド予定地

番号	
①	大阪市立東洋陶磁美術館
②	大阪市中央公会堂
③	大阪府立中之島図書館
④	大阪市役所
⑤	日本銀行大阪支店
⑥	こども本の森　中之島



中之島図書館、中央公会堂の近代建築の魅力を活用して、中之島エリアの集客及び活性化をめざします。

凡　例	整備済み	整備予定
大阪市		
その他公的施設		

○中之島５丁目

・国際的な拠点形成に資する質の高い民間開発を誘導するまちづくりの検討・調整を進めます。

なにわ筋線
（仮称）中之島駅
(2031年春開業予定)

○中之島４丁目

・大阪の文化・芸術・学術の中心を担う国際的な拠点へ
・大阪中之島美術館、市立科学館、国立国際美術館の連携により国内有数のミュージアムゾーンをめざします。
・大阪中之島美術館隣接市有地等で、社学共創・産学共創・アート拠点、未来医療国際拠点の形成をめざします。

■社学共創・産学共創・アート拠点

産学官の連携により、大阪大学の知を中之島で交差させ、文化・芸術・学術・技術の新たな交流・発信拠点となる‘中之島アゴラ’の形成を推進。大阪大学中之島センターにおいて、既存施設を改修・機能強化し、2023年４月春に開館しました。

■未来医療国際拠点 (Nakanoshima Qross)

最先端の未来医療の産業化を推進し、難治性疾患に苦しむ国内外の患者への未来医療の提供をめざす拠点を形成。2024年の開業をめざします。

■大阪中之島美術館

所蔵する第一級のコレクションを活用して、歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島の魅力向上に貢献します。

○中之島通等の歩行者空間整備

・文化施設が集まる中之島東部エリアにおいて2020年７月にこども本の森 中之島が開館し、多種多様な来客が見込まれることから、回遊性を向上させ、快適な歩行者空間のより一層の拡大・拡充を進めるとともに、歩行者交通量の増加に伴う事故リスクに対する交通安全対策として、中之島通（2021年度　工事完了）及び中央公会堂周辺（2022年～2023年度工事）について歩行者空間化を行いました。

御堂筋周辺

・大阪のメインストリートである御堂筋では、時代の要請に応じ、21世紀の発展を支える新しい御堂筋とするため、歩いて楽しめ、24時間稼働する多機能エリアへの転換を図り、御堂筋のブランド力の向上をめざします。
・大阪のまちを一つの大きなミュージアムととらえ、そこに存在する 生きた建築＊ ’を通した大阪の新しい魅力の創造・発信を進めます。

○ 御堂筋のブランド力の向上

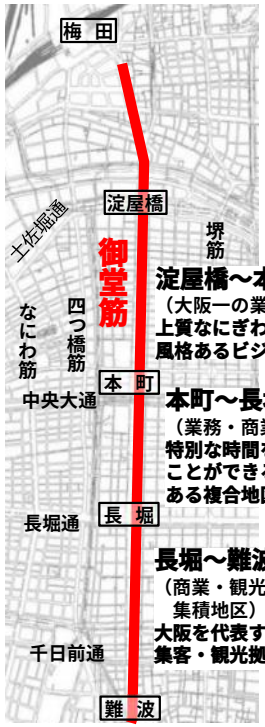
側道を歩行者空間等として活用し、車中心から人中心の道路空間への転換を図ります。
また、沿道建築物低層部における質の高いにぎわい施設の誘導により、大阪のシンボルストリートにふさわしいまちなみの創出やエリアの活性化を図ります。

○ 生きた建築ミュージアム

御堂筋及びその周辺エリアを中心に、代表的な「生きた建築」を「大阪セレクション」として選定しています（全97件）。また、民間の方々との連携による建築一斉公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪）」の開催を通して、その魅力を広く発信していきます。

御堂筋の側道歩行者空間化
（千日前通～道頓堀川区間（東側））

御堂筋のまちなみ（淀屋橋～本町）



御堂筋沿道の大阪セレクション

梅田吸気塔

大阪ガスビル

南海ビル［高島屋大阪店ほか］

生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（イケフェス大阪）

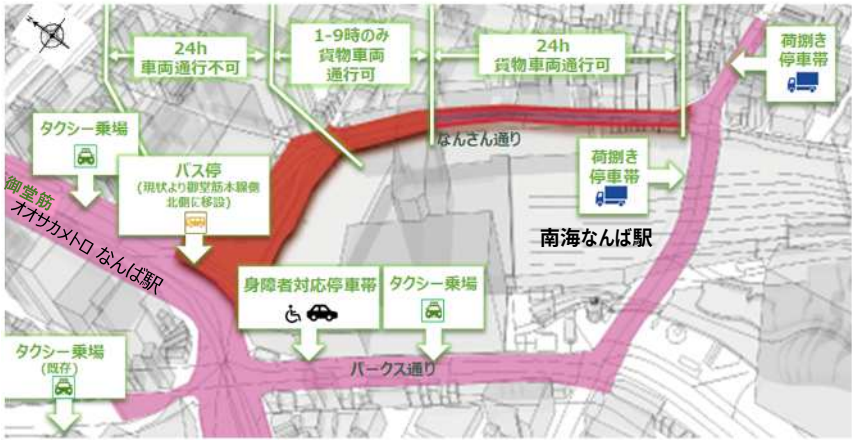
写真：すべて西岡 潔

＊生きた建築：ある時代の歴史･文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化･発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等

なんば

・市民、観光客をはじめ、だれもが安心して訪れ、その歴史や風情を楽しむことができる環境づくりを進め、難波周辺を商業・観光エリア「ミナミ」として再生します。
・大阪のメインストリートである「御堂筋」の起終点として、なんば駅前において人中心の空間への再編を進め、新しいまちのシンボル空間を創出します。

位置図



なんば駅周辺整備計画

○ なんば駅周辺における空間再編推進事業

なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、エリアマネジメント活動により、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図ります。

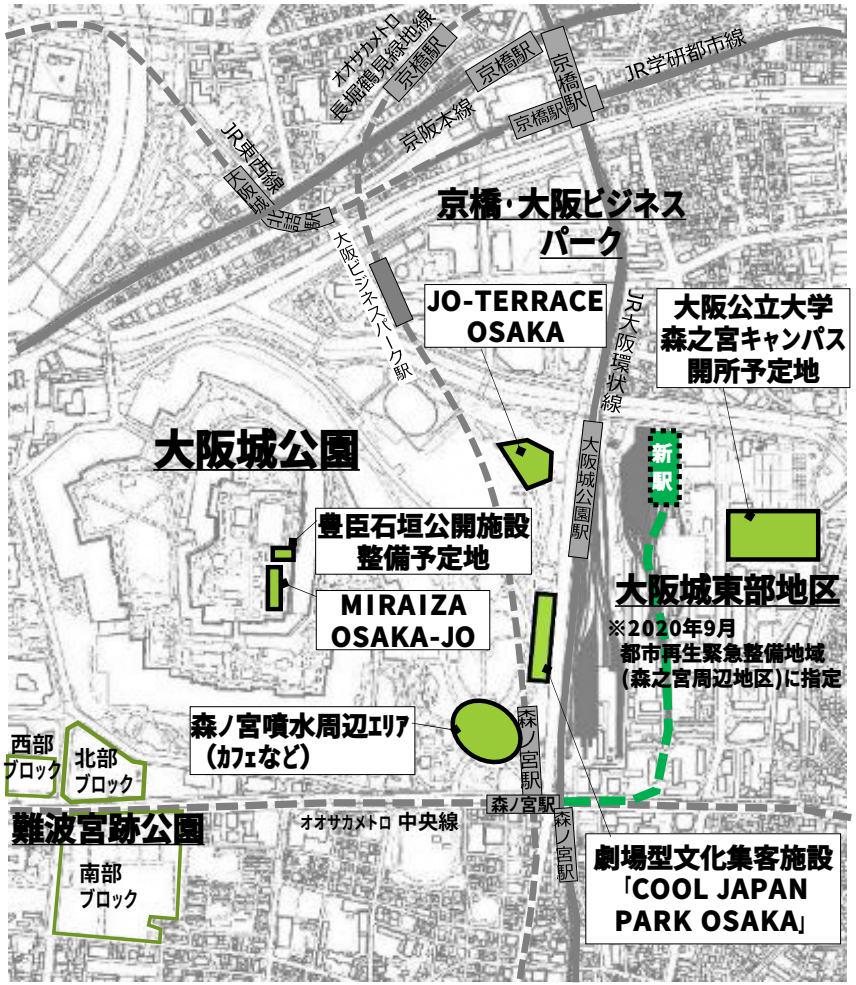
なんば駅前の状況（整備前）

なんば駅前の状況（整備後）

なんば駅前のイベント開催時イメージ

大阪城公園・大阪城東部地区・京橋駅・大阪ビジネスパーク駅周辺 ①

・大阪城公園の民間活力導入による新たな魅力創出や難波宮跡公園の歴史的資源の活用により、大阪城公園を中心とした世界的な歴史観光拠点化を一層進めます。
・京橋駅周辺では、ターミナル駅の機能拡充や複合的な都市機能の集積を図るとともに、大阪ビジネスパーク駅周辺では、地区の環境への配慮や防災性の向上を図りながら国際的な業務・商業機能を充実・強化することにより、魅力ある複合的な国際拠点をめざします。



○ 大阪城エリア観光拠点化事業

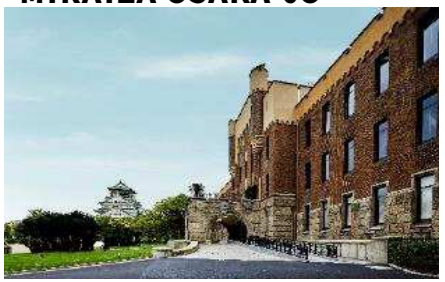
・民間事業者による大阪城公園パークマネジメント（ＰＭＯ）事業により、世界的な歴史観光拠点化を進めます。

・特別史跡大坂城跡の特徴である歴史の重層性を象徴する遺構のひとつとして、豊臣期大坂城の詰ノ丸石垣を露出公開展示し、大阪城の本物の歴史文化を体感できる施設を整備します。

○ 難波宮跡公園整備

難波宮跡公園は、歴史的資源を活かし、隣接する大阪城公園と一体となった、観光拠点となる歴史公園として整備を推進します。北部ブロックから整備を進め、周辺の回遊性の向上を図ります。

MIRAIZA OSAKA-JO



豊臣石垣公開施設　完成予想図

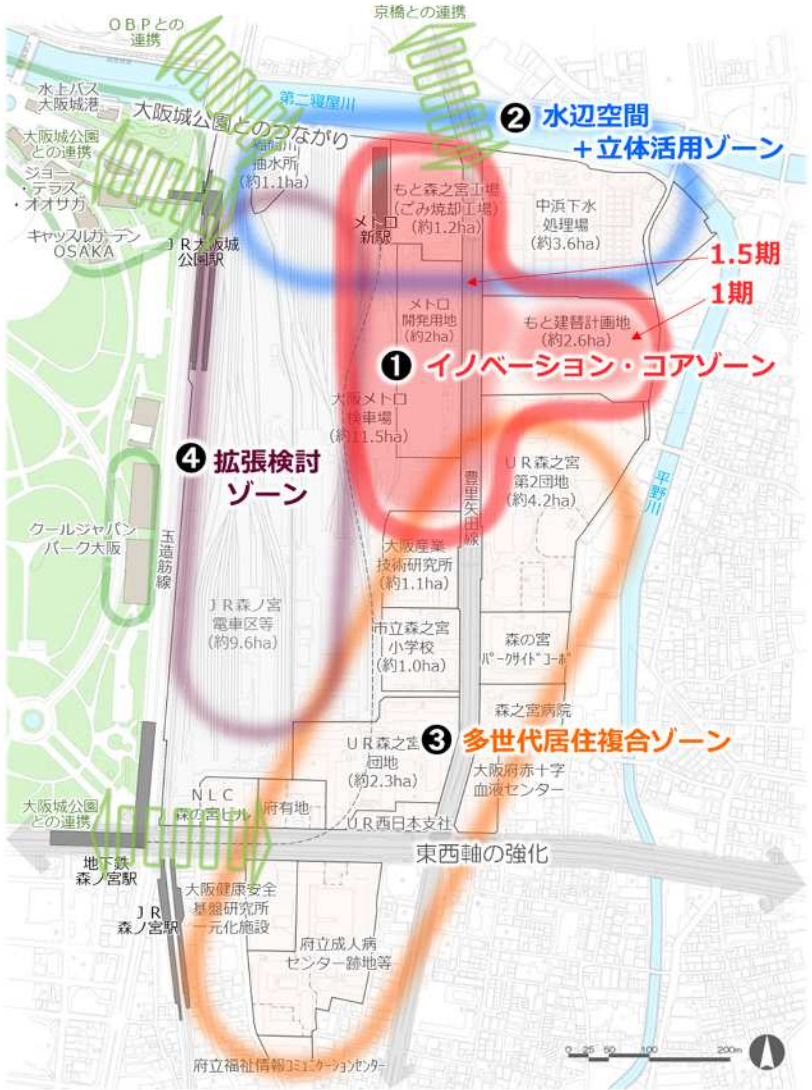
難波宮跡公園　完成予想図※

※提案段階のものであり、今後の協議により変更となる場合があります。
（提供：難波宮跡整備･運営事業者）

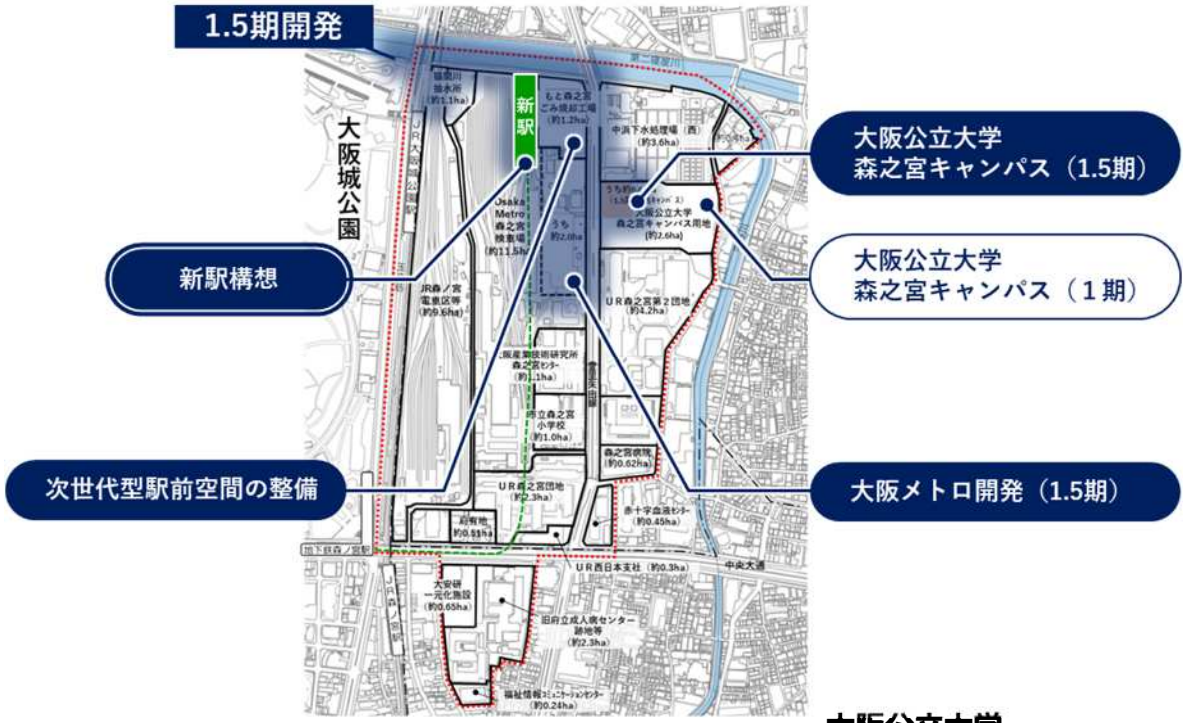
大阪城公園・大阪城東部地区・京橋駅・大阪ビジネスパーク駅周辺 ②

・大阪城東部地区では、大阪公立大学を先導役とした、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちづくりを推進します。

ゾーニングイメージ



１.５期開発の取組イメージ



大阪メトロ新駅イメージ

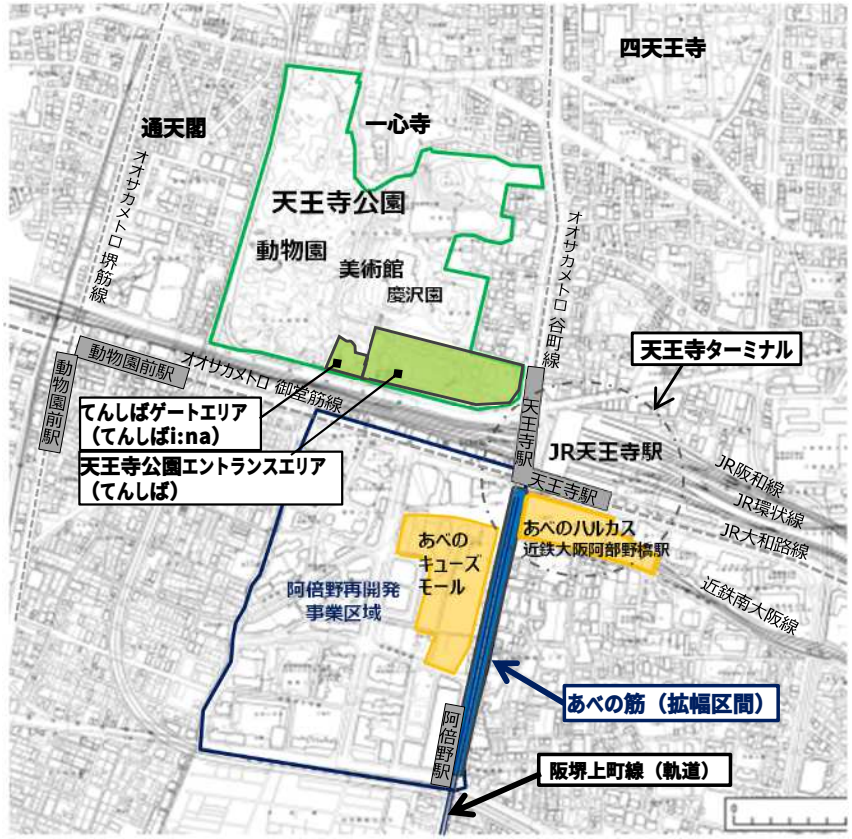
Osaka Metro　ホームページ

大阪公立大学
森之宮キャンパス（1期）イメージ

大阪公立大学　ホームページ

天王寺・あべの

・天王寺・あべの地区は、多様な観光資源を有する大阪の南の玄関口であり、その強みを活かし、地区の核となる天王寺公園・動物園・美術館の魅力向上、並びに回遊性の向上や良好な景観の形成を図ることで、新たな都市魅力を創出する緑あふれる文化観光拠点をめざします。



○ 天王寺公園の魅力向上

天王寺公園を核とした天王寺･阿倍野地区の魅力発信･集客促進に取り組みます。

･天王寺公園

官民連携等により、公園の新たな魅力を創出し、歴史･文化･自然が一体となった公園として、多様な人々が憩い楽しめる、大阪の南のシンボルになることをめざします。

･天王寺動物園

地方独立行政法人天王寺動物園にかかる中期目標（令和３～７年度）を基に、天王寺動物園の魅力向上に向け、大都市大阪にふさわしい「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」をめざします。

･大阪市立美術館

(2025年３月リニューアルオープン予定)

美術館の抜本的な改修を行い、現代の美術館に求められる機能の確保を図り、施設の魅力向上につなげます。

天王寺公園エントランスエリア
（てんしば）

天王寺動物園ゲートエリア
（てんしばi:na）

○ あべの筋の魅力づくり

道路拡幅と路面電車の軌道緑化を機に、あべの筋（あべのターミナル周辺）において、地域と協力した道路の適正利用やまちの美化に向けた各種対策に、継続して取り組んでいきます。

芝生軌道（あべのキューズモール前付近）

大阪市立美術館改修後イメージ

天王寺動物園
（ペンギンパーク＆アシカワーフ）

臨海部

・臨海部では、環境・新エネルギーのモデルエリアの実現に向けた取組みを進めるとともに、MICE機能や国際的なエンターテイメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の実現や、クルーズ客船の母港化などにより、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

2025年日本国際博覧会の開催について

2025年日本国際博覧会の開催を大阪成長の起爆剤とし、大阪・関西の経済発展につながることや大阪の魅力を全世界に発信する絶好の機会とするため、2025年日本国際博覧会協会及び国、大阪府、経済界とも一丸となり、成功に向けて取組みを進めていきます。

○ **テーマ**
いのち輝く未来社会のデザイン
（Designing Future Society for Our Lives）

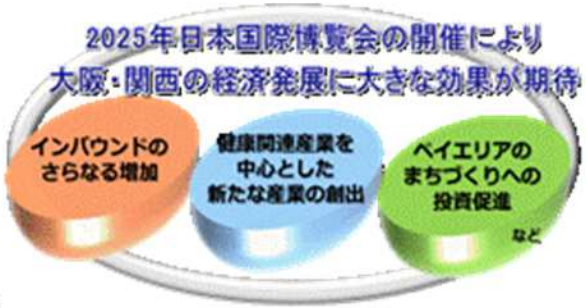
○ **開催期間**
2025年４月13日～10月13日

○ **会場**
夢洲（大阪市此花区）

○ **来場者数（想定）**
約2,820万人

○ **経済波及効果（試算値）**
約2.0 兆円
（ビッド・ドシエ提出時点）

○ **主な開催経費**
会場建設費　約2,350億円
事業運営費　約1,160億円



○ 新たな国際観光拠点の形成に向けた夢洲まちづくりの取組

夢洲まちづくり構想及び夢洲まちづくり基本方針に基づくまちづくりの実現に向けた取組を推進します。

○ スーパーシティ構想の推進

夢洲にて、先端的サービスの実証、実装を行い、スーパーシティ構想の推進に取組みます。

○ クルーズ客船母港化

クルーズ客船の母港化により国内外の集客力を強化するとともに新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

天保山岸壁に入港する客船

○ 新たなにぎわいの創出

民間事業者による公共還元型の港湾緑地等の施設整備(港湾法の新制度)や旧集客施設の活用等により、臨海部に新たなにぎわいの創出をめざします。

Premium Jewelry Dome Osaka 予定地
（旧集客施設の活用）

CITY OF OSAKA

大阪市